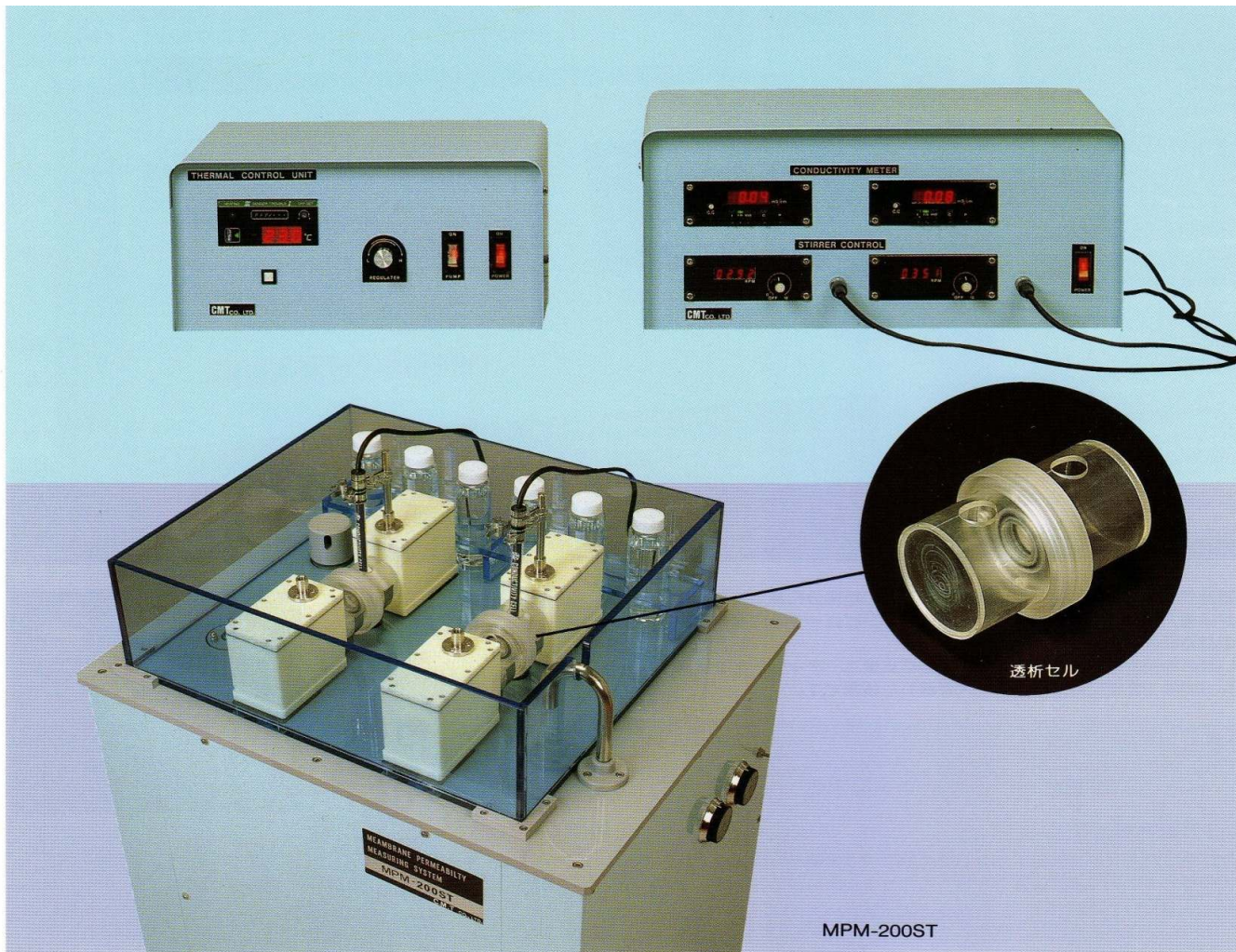


工業技術院発明による

# 液体用 膜透過率測定装置



MPM-200ST

溶質や液体成分が濃度の高い側から低い側へ移行する性質を利用して、電気伝導度の変化を導電率計を用いて測定する方法です。電解質溶液はそのまま測定できますが、非電解質溶液でも適当量の試料をサンプリングして、分光器、屈折計、クロマトグラフ等で分析すれば、膜透過係数を求めることができます。  
\*条件が許せば、電解質を予め加えた溶液の電気伝導度が非電解質の移行量に比例して変化することを利用し、本装置だけを使って膜透過係数を近似値的に求めることもできます。

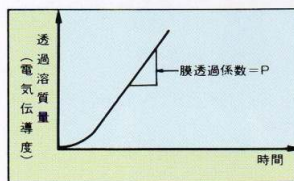
## 特長

膜透過は、いかに同一条件で測定できるかが、正確で精度よい測定を行うための重要なポイントです。本装置はこれを満足させ、しかも、広汎な条件設定も可能にしました。

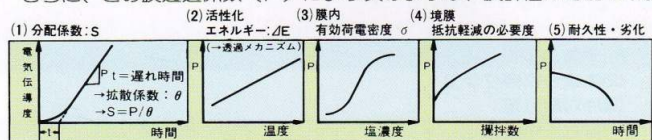
- 1 透析セル—膜の着脱が簡単なため、膜のセット時の破損・擦れ・液洩れがありません。
- 2 恒温槽—恒温水循環機精度が良いため、温度制御が非常に優れております。
- 3 攪拌機—回転精度が良く、セル内の条件再現性も非常に高く、かつ実回転数をセンサーで感知。しかもデジタル表示なので操作性に優れています。
- 4 導電率計—各々の透析セル内部を同時に計測・表示できるため、膜の両側の濃度減少・増加を同時にモニターして、マスバランスを取ったり、能率を上げたりすることができます。
- 5 その他—(i) 試料水溶液を専用のサンプルビンに入れ、予熱・予冷できるように、恒温槽内にピンホルダーを設けています。  
(ii) 恒温槽の水面高さが吸込みパイプにて、調整できます。  
(iii) 伝送出力端子（10点同時出力）を設けてあるので、プリンター・パソコン等への入力が可能です。

## 透過率測定

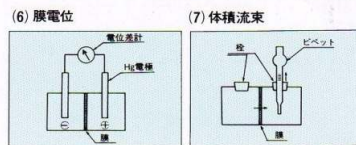
経時変化における電気伝導度を測定することにより、膜透過係数=Pが求められます。



さらに、この膜透過係数 (P) により次のような、膜評価が可能です。



膜の透過率測定により(1)~(5)までの膜評価が可能です。また、Hg電極と電位差計を付加することにより膜電位(6)が、ピペットを取りつけピペット内の液面上昇により、体積流量(7)がそれぞれ測定可能です。



注) 本カタログ製品は性能・機能向上等の為、仕様及びデザインを予告なく変更することがあります。

製品の仕様・性能に関して、ご質問等ございましたらお気軽にお問合せ下さい。

(株)シー・エム・ティ TEL:0246-21-7766 FAX:0246-21-7177

URL: <http://www.cmt-ltd.co.jp> E-mail: [info@cmt-ltd.co.jp](mailto:info@cmt-ltd.co.jp)